

編輯室より（一九一五年一月号）

伊藤野枝

青空文庫



□編輯室も随分賑やかでしたけれ共とう／＼私一人にされてしまひました。ひとりでコツコツ校正をやるつまらなさはあの文祥堂の二階の時分を思ひ出させます。

□大正三年はもう暮れましたがかなり青鞥にとつてはいろ／＼な変化のあつた年でした。来年はいゝ年であつて欲しいと思ひます。

□私が青鞥を引き受けたについて大分あぶながつてゐて下さる方があるとのことですが併しかし私はどうかして引き受けた以上はやつて行くつもりです。私は何時でも私の年が若いと云ふことの為めに私の力を蔑視されるのが一番口惜しい気がします。私に

この雑誌を続けて行ける力があるものかないものか見てゐて欲しいと思ひます。私は私の呼吸のつゞく限り青鞥を手放さうとは思ひません。

□今年のお正月は屹度きつとさびしいお正月でせう。平塚さんは七草頃でなければ帰らないと云ふことですし、哥津ちゃんも平塚で年を迎へるさうですし集まることも出来ません。

□平塚さんは十二月号の安田皐月さつきさんの『生きることゝ貞操と』を読んで考へついたことがあるし生田花世いくたはなよさんについて何時も考へてゐたこともあるから、二月号に『貞操に就いて』お書き下さる筈です。尚花世さんはあの返事を「私と私の良人おととの為に真剣に」反響新年号に書いたと云つてまゐりました。

□野上彌生子やえこさんは十二月中旬におかへりになりました。皆様大変御元気でおかへりになりました。中央公論に何かお書きになったさうです。附録のソニヤの伝はおしまひまでと思ひましたが紙数の都合でもう二章残つてゐます。大変面白いものです。いろ／＼な事を考へさゝれました。

□松井静代さんはこの程から 麴こうじまち町 三番町の萬源と云ふお料理屋の帳場におすはりになりました。伯父さまのお家ださうです。二月号には何かおかき下さる筈です。

□安田臯月様は誠に止むを得ない理由で彼の店あをお止になりました。始終第一義的に情実にまげられないやうに活きやうと努力してお出になるかたとしてはそれも誠に余儀ないことだと思ひ

ます。今は小石川第<sup>だいろくてんちよう</sup>六天町横田方にお住居です。

□<sup>さいが</sup>齋賀琴子さんは矢張り宮田先生のお宅で勉強してお出になりま  
す。二月号に短歌をどつさり頂けることになってゐます。

□ 久しい前から一度お目に懸つて見たいと思つてゐました山田わ  
か子さんをこの間おたづねして見ました。私の想像してゐたの  
にもまして嬉しい方でした。少しお話してゐますうちに私はす  
っかりお友達になつてしまひました。健康らしい、血色と蟠<sup>わだか</sup>  
まりのない気持のいゝお声と精力が溢れるやうなお体つきを見  
てゐますと私は自分の貧弱なのがいやになつて仕舞ひました。  
廿五から英語をおはじめになつたのださうです。そうして今は  
もう自由に他人にお教へなさることの出来る程なお力を私はう

らやましいとも何とも云ひやうのない気持ちで山田さんの顔を  
をながめてみました。そうしてその御勉強の最中におなじ年の  
子供を他人の子ばかりを三人もお育てになつたと聞いては私は  
たゞもう驚くより他はありませんでした。それにまた四年前か  
らピアノをお初めになつて毎日三時間づゝもお稽古をなさるさ  
うです。そのすべての事に対する山田さんの勇氣と忍耐とは日  
本の家庭の婦人としては実に異数な方だと思ひます。私はかう  
云ふ方が私たちの前にたつてゐて下さることを力強く思ひます。  
二月号には『虎さん』と云ふ創作を発表して下さる筈です。

□大正三年の編輯ももう終りですから古く集まつたかさばつた原  
稿を仕末しやうと思ひましてひろげて見まして其中から拾ひ出

したのが二三編御座います。発表する時期が外れてゐて妙にお  
思ひになるでせうけれどそれはお許し下さいまし。

□面倒でそれ丈<sup>だ</sup>けの効果もありませんから爾<sup>じ</sup>後<sup>ご</sup>しばらくは交換広  
告は全部止めたいと思ひます。何卒あしからず。なを雑誌の交  
換は相変らずお願ひしたいとおもひます。

□来年から補助団のために、パンフレットを時々出そうと思つて  
ゐます。出来る丈けいゝものを選んでやるつもりです。

「『青鞥』第五卷第一号、一九一五年一月号」







# 青空文庫情報

底本：「定本 伊藤野枝全集 第二卷 評論・随筆・書簡」――  
『青鞜』の時代」学藝書林

2000（平成12）年5月31日初版発行

底本の親本：「青鞜 第五卷第一号」

1915（大正4）年1月号

初出：「青鞜 第五卷第一号」

1915（大正4）年1月号

※ルビは新仮名とする底本の扱いにそって、ルビの拗音、促音は小書きしました。

入力：酒井裕二

校正：雪森

2016年12月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.w.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 編輯室より（一九一五年一月号）

伊藤野枝

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>